

救急救命学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	26	救急病態生理学
1年	36	疾病救急医学Ⅱ
2年	56	年間予定表
2年	69	臨床実習
2年	70	救急用自動車同乗実習

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-ESP-01				
	●	●		●						
科目名	救急病態生理学				単位認定者	佐藤 武諭毅		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態		講義		授業回数	20 回
授業の概要	<p>人体の器官等が、疾患（病気）によって異常や不全を起こすことで生じる生体機能の病的な変化を研究する学問を病態生理学といい、そのうちの救急疾患に関連の深い病態について扱うものを救急病態生理学という。呼吸不全、心不全、ショック、重症脳障害、心肺停止等について、正常な生理学、病態の発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。千差万別である救急救命の現場において、正確に疾患を把握するための知識を身につける。</p>									
到達目標	救急疾患に関係の深い病態に対する知識を得、生体の機能的変化を説明できるようになる。									
学修者への期待等	テキストで予習・復習をすること。現場での緊急度重症度が比較的高い病態であるため理解を深めてほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	心肺停止① (心肺停止の概念、ウツタイン様式)									
2	心肺停止② (心肺停止に至る病態、原因疾患)									
3	心肺停止③ (心肺蘇生中の循環、心拍再開後の病態)									
4	心肺停止④ (復習)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章救急病態生理学で復習すること(概ね1時間)。レポート提出(概ね1時間) 詳細は授業で説明。					
5	心不全① (心不全の定義、原因疾患)									
6	心不全② (心不全における病態生理)									
7	心不全③ (心不全の症候、種類)									
8	心不全④ (復習)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章救急病態生理学で復習すること(概ね1時間)。レポート提出(概ね1時間) 詳細は授業で説明。					
9	ショック① (ショックの定義、発生機序)									
10	ショック② (各種ショックについて)									

回	授業計画	準備学修
11	ショック③ (ショックの傷病者に対する観察、処置)	
12	ショック④ (復習)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章救急病態生理学で復習すること(概ね1時間)。レポート提出(概ね1時間) 詳細は授業で説明。
13	重症脳障害① (意識障害、一次性脳病変と二次性脳病変)	
14	重症脳障害② (頭蓋内圧亢進)	
15	重症脳障害③ (脳ヘルニア)	
16	重症脳障害④ (復習)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章救急病態生理学で復習すること(概ね1時間)。レポート提出(概ね1時間) 詳細は授業で説明。
17	呼吸不全① (呼吸不全の定義について)	
18	呼吸不全② (低酸素血症)	
19	呼吸不全③ (高二酸化炭素血症、換気障害の種類)	
20	呼吸不全④ (復習)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章救急病態生理学で復習すること(概ね1時間)。レポート提出(概ね1時間) 詳細は授業で説明。
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト 改訂第10版』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版	
<b>参考文献</b>	『新版 からだの地図帳』佐藤達夫、講談社	
<b>備考</b>		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-DEM-02				
	●	●	●	●						
科目名	疾病救急医学Ⅱ				単位認定者	佐藤 武論毅		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		40 時間	受講態度
				授業回数		20 回				
授業の概要	救急救命の現場で遭遇することの多い疾患について学修する。消化系疾患は頻度が高く、軽症例から緊急の処置が必要な重症例まで幅が大きい。泌尿系疾患では、腎臓機能の低下、尿管・尿道の流路障害、尿路感染症、生殖系疾患では、女性は内生殖器感染症や腫瘍に起因する病態、男性は精巣上体炎、前立腺炎等の感染症、精索捻転症等の頻度が高い。また、内分泌・代謝・栄養系疾患の中では特に糖尿病とその合併症による救急要請が多い。「疾病救急医学Ⅱ」では、消化系疾患、泌尿・生殖系疾患、内分泌・代謝・栄養系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。									
到達目標	消化系疾患、泌尿・生殖系疾患、内分泌・代謝・栄養系疾患についての病態について理解し説明することができる。									
学修者への期待等	テキストを熟読すること。授業内で小テストを実施する。消化系、泌尿系、生殖系、内分泌系の構造と機能についても予習・復習すること。授業とシミュレーションと合わせて理解を深めてほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	消化系疾患① (総論、歯・口腔疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
2	消化系疾患② (食道疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
3	消化系疾患③ (胃・十二指腸疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
4	消化系疾患④ (構成する器官)				テキスト第Ⅱ編専門基礎分野 第1章人体の構造と機能 7消化系、第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
5	消化系疾患⑤ (腸疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
6	消化系疾患⑥ (急性腹膜炎)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
7	消化系疾患⑦ (肝臓・胆道・膵臓の疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
8	泌尿・生殖系疾患① (総論)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
9	泌尿・生殖系疾患② (急性腎不全と急性腎障害)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
10	泌尿・生殖系疾患③ (構成する器官)				テキスト第Ⅱ編専門基礎分野 第1章人体の構造と機能 8泌尿系、9生殖系、第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					

回	授業計画	準備学修
11	泌尿・生殖系疾患④ (慢性腎不全と慢性腎障害)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
12	泌尿・生殖系疾患⑤ (尿路の疾患)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
13	泌尿・生殖系疾患⑥ (女性・男性生殖器の疾患)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
14	代謝・内分泌・栄養系疾患① (総論)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
15	代謝・内分泌・栄養系疾患② (糖尿病)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
16	代謝・内分泌・栄養系疾患③ (糖尿病とその合併症)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
17	代謝・内分泌・栄養系疾患④ (その他の代謝異常)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
18	代謝・内分泌・栄養系疾患⑤ (甲状腺機能亢進症・低下症)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
19	代謝・内分泌・栄養系疾患⑥ (副腎機能異常)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
20	代謝・内分泌・栄養系疾患⑦ (栄養疾患)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト 改訂第10版』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版	
<b>参考文献</b>	『新版 からだの地図帳』佐藤達夫、講談社	
<b>備考</b>		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

## 2024年度 救急救命学科2年生 年間予定表

### 前期

		日	月	火	水	木	金	土
4月		1		2	3 (入学式)	4 オリエンテーション	5 PM健康診断	6
	7	8	9 授業開始	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	1	2	3	4	
5月	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13 救急用自動車同乗実習	14 救急用自動車同乗実習	15 救急用自動車同乗実習	16 救急用自動車同乗実習	17 救急用自動車同乗実習	18	
	19	20 救急用自動車同乗実習	21 救急用自動車同乗実習	22 救急用自動車同乗実習	23 救急用自動車同乗実習	24 救急用自動車同乗実習	25	
	26	27 救急用自動車同乗実習	28 救急用自動車同乗実習	29 救急用自動車同乗実習	30 救急用自動車同乗実習	31 救急用自動車同乗実習	1	
6月	2	3 救急用自動車同乗実習	4 救急用自動車同乗実習	5 救急用自動車同乗実習	6 救急用自動車同乗実習	7 救急用自動車同乗実習	8	
	9	10 救急用自動車同乗実習	11 救急用自動車同乗実習	12 救急用自動車同乗実習	13 救急用自動車同乗実習	14 救急用自動車同乗実習	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	1	2	3	4	5	6	
7月	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31	1	2 予備日	3	
8月	4	5 定期試験	6	7 不合格者発表	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19 再試験	20 再試験	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
9月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20 後期オリエンテーション	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-CLP-06			
		●	●	●	●				
科目名	臨床実習				単位認定者	堀口 雅司		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	4 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	160 時間		
					授業回数	集中			
授業の概要	各医療機関において臨床実習を行う。様々な救急処置を見学し、救急医療の現場を正しく理解し、医師やメディカルスタッフの指導の下に傷病者に接することで、病状、病態等の観察・判断の実際を学び、傷病者への対応についても体験する。臨床実習を通して、これまで修得した救急医療に関する知識の整理・定着と救急救命処置技術の修得を目指す。また、救急医療におけるチーム医療の実際を体験するとともにメディカルコントロールの重要性を認識し、医師の指示の下で救急医療を担う救急救命士としての自覚と責任感を養う。								
到達目標	臨床実習では医療知識の応用と、特定行為に関わる技術の習得を主体とする。さらに、医療現場の見学と介助を通して診療補助に対する理解を深める。これまで学んだ事や救急用自動車同乗実習で体験したこと、そして今回の臨床実習にて現場から医療機関までの一連の流れを学ぶ。								
学修者への期待等	毎日が交替で勤務している多忙な現場であるとともに、緊急性が高い現場で実習することを理解し、自分の所在を明らかにし、様々な状況に対応できるよう幅広い視野を持ち行動してほしい。どのような経験も自分の財産になるので目的意識と問題意識を持ち積極的な姿勢で臨むことを期待する。								
授業計画									
I. 実習期間：令和6年11月11日（月）から12月13日（金）（うち20日間）									
II. 実習目的									
1. 医療知識の応用と特定行為に関わる技術の習得を目的とする。									
2. 医療現場の見学や医療行為の介助を通じて、診療補助に対する理解を深める。									
3. 救急要請から病院収容後の検査、治療等の一連の過程、チーム医療について理解する。									
4. インフォームドコンセントの重要性や患者や家族に対してのいたわりの心をもつことを学ぶ。									
5. 病院内の医療従事者の業務やそれぞれの連携についての理解を深める。									
III. 実習目標									
1. 知識や技術の習得ならびに診療補助に対する理解を深める。									
2. 患者を支えている様々な医療従事者の役割や内容、どのように連携をしているかを理解する。									
3. 様々な状況にある傷病者や家族等の関係者に対する接遇について学ぶ。									
IV. 実習計画									
オリエンテーション 実習前3時間 実習後7時間									
1. 救急救命士を目指す学生として誠実かつ謙虚な姿勢で実習に臨むとともに、事前・事後学習を十分行い積極的な態度で学ぶ。									
2. どのような内容でも与えられた役割は確実に遂行すること。									
3. 毎日の実習記録を臨床実習指導者に提出すること。									
4. 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して症例に対しての理解を深める。									
5. 実習終了後に報告会を開催し、学生間での学びを共有する。									
教科書	『救急救命士標準テキスト 改訂第10版』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『救急処置スキルブック』〈上下巻〉（新訂第2版）田中秀治（総監修）、晴れ書房 『救急技術マニュアル』（6訂版）救急業務研究会、東京法令出版								
参考文献	適宜提示する。								
備考	詳細は後日配布する実習要綱参照 担当者：専任教員 堀口雅司、鈴木宏俊、平川正隆								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-CLP-05			
		●	●	●	●				
科目名	救急用自動車同乗実習				単位認定者	堀口 雅司		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		40 時間
				授業回数		集中			
授業の概要	各消防機関において救急用自動車同乗実習を行う。消防機関から救急車が出動する際等に、それに同乗し実習を行う。出動の待機から、出動、救急現場、搬送、医療機関への引き継ぎ等あらゆる場面における救急救命士の活動を見学し、救急医療の実際や救急体制、消防機関における救急救命士の役割を理解する。また、実習までに修得した知識や技術を、救急救命の現場において適切かつ安全に実用するための視点を身につける。また、救急救命士の、傷病者やその家族への対応から、救急救命士に必要な倫理観についても考察する。								
到達目標	救急用自動車同乗実習では、消防機関における消防職員、救急救命士としての役割を学ぶことを目的とする。また、現場で活躍する隊員の方々の手技を見学するとともに、知識の向上と現場対応能力を養う。								
学修者への期待等	規則や心得を順守し、実習生として主体的かつ責任ある行動を取ること。1年次の座学や、救急救命シミュレーションⅠ・Ⅱでの学修を基に、現場での見学や体験を通して現場活動や症例に対する理解を深め、将来に繋げていけることを期待する。								
授業計画									
I. 実習期間：令和6年5月13日（月）から6月14日（金）（うち5日間）									
II. 実習目的									
1. 消防機関における消防職員、救急救命士としての果たすべき役割を学ぶ。									
2. 消防署内での業務、現場活動を通じ、消防業務ならびに救急業務等について理解する。									
3. 現場での接遇や医療機関との連携等の実際を見学し、対応を習得する。									
4. 救急隊員が行う傷病者の観察方法ならびに観察結果を見学し、知識及び技術の確認を行うとともに、学修の成果を挙げる。									
III. 実習目標									
1. 消防機関での消防職員、救急救命士としての役割を知ることができる。									
2. 消防署内での業務を理解し、消防職員を目指す学生として使命感及び向上心を獲得することができる。									
3. 現場活動の見学を通して、どのように実践されているか理解できるとともに、今後の課題が分かる。									
IV. 実習計画									
オリエンテーション 実習前3時間 実習後7時間									
1. 救急救命士を目指す学生として誠実かつ謙虚な姿勢で実習に臨むとともに、事前学習を十分行い積極的な態度で学ぶ。									
2. 実習時間は1日概ね8時間とする。ただし、救急活動等が長時間にわたり、実習終了予定時間を超えた場合でも、救急活動終了までは実習を継続すること。									
3. 毎日の実習記録を臨床実習指導者に提出すること。									
4. 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して症例に対しての理解を深める。									
5. 実習終了後に報告会を開催し、学生間での学びを共有する。									
教科書	『救急救命士標準テキスト 改訂第10版』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『救急処置スキルブック』〈上下巻〉（新訂第2版）田中秀治（総監修）、晴れ書房 『救急技術マニュアル』（6訂版）救急業務研究会、東京法令出版								
参考文献	適宜提示する。								
備考	詳細は後日配布する実習要綱参照 担当者：専任教員 堀口雅司、鈴木宏俊、平川正隆								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--